



政策ディレクター
武富 涼介

政策ディレクター
宮本 幸子

常務理事
玉澤 正徳

広報チームリーダー
清水 健太

政策オフィサー
清水 恵美

Sport for Everyoneへ、 正解なき道先導

設立30周年、シンクタンク化10周年。大きく変わる時代にあって、SSFはスポーツを通じて社会にどのような価値を発信していけるのだろうか。今後の中核メンバーとなる若手・中堅職員が語り合った。

「Sport for Everyone」に惹かれて

玉澤 私はアメリカの大学に留学中、生涯スポーツの原風景と思える場面に遭遇しました。助っ人でその大学のラグビーの試合（現役の学生もOBのおじさんたちと一緒に楽しむファンゲーム）に出たあと、グラウンドの横でくつろいでいたら、別のチームの選手がけがをしました。そのまま代わりに入って、一時的なプレーが終わったら何事もなかったかのようにまた戻ってビールを飲み始めました。スポーツをプレーすることに気負いがなく、芝生のグラウンドにさっと入って、さっと戻ってきたんです。

私が個人的にスポーツをとおして実現したいのは、この光景が象徴するように、スポーツライフとノンスポーツライフの垣根が低く、自然に行き来できる社会です。

皆さんは、入社時にどんな思いを持っていたのでしょうか。

清水健 入社の際のきっかけは3つあります。まず、シンプル

にスポーツ界で働きたかったこと。スポーツが好きな家庭環境で、私自身バスケットボールの部活動をおとしてチームワークを学んできたので、スポーツに関わりたい気持ちがありました。2つ目は前職（IT企業）とは異業種・異職種に飛び込み、自分が培った経験を試したかったこと。3つ目は、病氣療養をして体力に自信がなくなったとき、スポーツジムで体を動かすことで前向きになれた経験から、SSFの「スポーツ・フォー・エブリワン社会の実現」という理念により共感できました。ウェブサイトで障害者スポーツやスポーツボランティアの研究を見て、ほかとは違うSSFのカラーに惹かれました。

清水恵 私は大学まで陸上をやっていて、忍耐力や人への思いやり、仲間意識など、人生における大切なことを、競技スポーツをとおして学びました。社会人になってからは競技を離れ、プライベートでマラソンを走るようになりました。実は元々、長距離に苦手意識があったのですが、走ってみると達成感が気持ちよく、競技とは違うよさが

あるんです。そうしたさまざまなかたちのスポーツをとおして、多くの人の人生が豊かになれるお手伝いができる仕事がいいな、と思い入社しました。

武富 私は部活動や本格的なスポーツの経験はありません。ただ中学生のとき、日本で開催されたサッカーのFIFAワールドカップを現地で見ました。世界中から集まった観客が、負けているチームを必死で応援する声に感動してしまい、「こんなにエネルギーを生み出せるものは、なかなかない」と思ったのを覚えています。その後、高校生になって、父の仕事の都合でベトナムに移住したときに助けてくれたのもサッカーです。原っぱでボールを蹴っていると地元の子たちが集まってきて、言葉も通じない中で、一緒に楽しむことができたんです。この2つの原体験があった中、日本経済が低迷する時代こそ違う文脈の豊かさが価値を持つてくるのではと感じ、スポーツに関わってみようと思いを決意しました。

宮本 私の前職は教育系の企業で研究職が長く、次も研究職を探していたとき、スポーツをテーマとするシンクタンクを見つけました。教育の研究では、スポーツや習い事に関するデータは、家庭の収入と関連することが当時から知られていました。スポーツの価値も大切ですが、まずその状況をどうにかしたいという、研究者としての問題意識が最初にありました。

また前職は会社員でしたので、研究といってもビジネス

に資する視点が求められます。それに比べると公益財団法人なら、子どものために必要な研究成果の発信がよりしやすい可能性を感じました。

シンクタンクとして動く難しさ

玉澤 偶然ですが、今日のメンバーは全員、一般企業等での経験を経て入社されていますね。SSFで業務を重ねてきた中で、入社当初の思いは実現できていますか。時には前職とのギャップを感じることもあったのではないのでしょうか。

清水健 私は広報業務未経験で、知識もなく、1年目は壁ばかりでした。組織を代表して最初の窓口になるので、プレッシャーが大きかったのを思い出します。

何よりメディアとの接し方が難しく、あやふやな答えをしまうと、記者の方も不安になり、信頼関係を損ねてしまいます。プレスリリースも、エビデンスに立脚しミスリードしないように書いたつもりでも、研究サイドから「そこまで踏み込んで言えない」と指摘されることもあり、難しさを感じました。これまでの経験を活かし、ウェブサイトでの発信を頑張りながら、いろいろな勉強会に参加して、こつこつ学んできました。

玉澤 シンクタンクの広報は、求められるナレッジも、ナレッジに対する正確さも、期待されるのが高いですね。また、一般の人たちが楽しむ生涯スポーツをテーマとした内容は記事化されにくいということもありません。発信側から、記事にするためのヒントを提供する必要もありますね。



清水健 今は各メディアに、SSFの研究活動に価値を見いだして、コンスタントに取材してくださる記者がいらっしゃいます。スポーツ担当の記者以外、社会福祉などを担当する記者でも、私たちと問題意識が近いということがわかったことが突破口になりました。でも、SSFの広報は研究あってこそなので、私ももっと学ばなくてはけません。

清水恵 研究をもとに私たちが働きかける先は、基本的に国や自治体です。実際に携わってみると、物事が進むのが想像以上にゆっくりだと感じます。

玉澤 行政は一般的に、民間企業等と比べると意思決定のプロセスがより複層的なため、時間がかかるといわれ

ますね。それであれば、それを踏まえて、有効な提言の打ち出し方、伝え方とは何かを考えることも、シンクタンクとしてやるべきことかもしれません。

清水 恵 国は事例集づくりを頑張っていますし、自治体からも「いい事例ありませんか」と問い合わせが頻繁にあります。また、自治体の中には熱心な方も多く、チャレンジデーのやり取りをきっかけに、それ以外の相談を受けることがあります。「SSF



に相談して本当に良かった」と言われることもあり、小さな積み重ねの価値を実感できたのは、私自身すごくうれしかった体験です。

武富 前職でラグビーワールドカップの運営に携わった際に、最も苦労したのは、国内で同じような事例を探すことが難しかった点です。また、自治体では新たなスポーツ施設を整備する際も、そのための事例調査を行うことが少なくない聞いたことがあります。シンクタンクとして事例集を用意しておけば、1回りのスポーツイベントにしる、施設整備にしる、今までゼロから始めなければならなかったところを、少し上のレベルからスタートでき、価値提供になると思います。

玉澤 私たちが蓄積したナレッジを容易に引き出してもらい仕組みをつくれるといいですね。一方で、ナレッジとしての事例集を発信するだけでは、個別のケースにそのまま対応させるのは難しい。リーダーがどんな人だったかや、どんな施設が揃っていたか、予算規模はどれくらいだったかなど「ヒト」「モノ」「カネ」の観点で留意すべきことも踏まえて寄り添わないとSSFらしい価値創造にならないかもしれません。

清水 恵 チャレンジデーを3年担当して、属人化と定期異動にも課題を感じます。国のスポーツ関係部署は出向元に戻っていく方が多く、自治体も2、3年で人事異動があり、積み上げていたものがなかったことになるケースもあってもったいなさを感じます。

玉澤 自治体の担当者が代わっても、「前任者とはこうやりましたよ」と伝えられる、いわば自治体の知恵袋的な存在をSSFが目指すことも重要ですね。

武富 そうした部分を含めて、人的・財的なリソースが足りてないところはスポーツ団体、文化団体に共通の課

題なのかと思います。海外のいろいろな組織・団体の方と話しても同じことを言われる機会が多いので、世界共通の課題なのでしょう。リソース不足を一部だけでも補填できるような仕組みを実現できれば大きな意義がありそうです。

生涯スポーツは正解がないからこそ

宮本 教育の世界で見てきたスポーツと、SSFで触れるスポーツには違いがありました。知らなかった面白い競技に触れられていますし、最初に経験したチャレンジデーでは、現地で開催されるさまざまなプログラムを存分に楽しめました。研究テーマが幅広いのも刺激があります。

一方で、女性の多い業界から転職して、最初は体の大きな男性の多さに戸惑いました(笑)。はじめて体育系の学会に行ったときにも、似た光景を目にしました。スポーツが得意な男性の集まりなのかなってというのは、当時はカルチャーショックで。自分が思う研究をやっているのかという不安が芽生えました。

玉澤 体が大きく(笑)、体育会出身の私としても、ジェンダーやスポーツ経験の有無などで生じた少数派が声を出しにくくなってはいけないとは、常に思っています。個人的な話になりますが、私の中3の次男はスポーツが嫌いになっちゃいました。自分の子育てをとおして、スポーツが得意な人、スポーツに好印象を持っている人たちだけで、スポーツの価値を考えたり、伝えたりするのは気をつけたいいけないんだな、と痛感しています。これはそのまま、現在のスポーツが抱える課題につながることもかもしれません。

宮本 スポーツの研究や政策には、「嫌いな人を好きにさせたい」という、スポーツができる人目線の前が多と感じます。でも社会には、暴力やいじめ、体育での苦い思い出など、スポーツで嫌な思いをしてきた子どももいます。スポーツが嫌い



な人に特別に寄り添わないまでも、マイナスの経験をゼロにする視点での研究や取り組みが、まだ足りていないのではないのでしょうか。

武富 スポーツが身体や精神によいことは、今では誰もが知っています。それでも、まだ多くの人が一歩を踏み出

してスポーツや運動をするところまでいっていません。このギャップを埋めるためには、これまでのアプローチとは異なる施策が必要になるのではないのでしょうか。

競技スポーツには、勝利や記録という正解があります。でも生涯スポーツには、正解がありません。今スポーツ界の中心にいる方々は競技スポーツ出身が多く、何にでも正解があるという前提で動いている印象を抱きます。まずは、その前提を再考すべきではないでしょうか。

玉澤 正解は一人ひとりあっていいですね。

武富 eスポーツやチェス、将棋、エクストリームスポーツ、アーバンスポーツなど、ひと昔前はスポーツじゃないと思われていたものがスポーツになりつつあります。やる側もどんどん変わってくる。だから、そこに向き合う方法もいっそう正解がないということになります。「スポーツをとおして友だちができました」も、「死ぬ気で練習して世界一になりました」も、「筋肉を鍛えまくって身体を強く、大きくなりました」も全部正解であっていいと思うのです。



未来への針路を社会に提案

玉澤 最後に、今後の理想的なスポーツのありかたを考えてみたいと思います。たとえば私は、体育の授業がうまくいったかどうかを測る基準として、多くの子どもたちがボールを遠くに飛ばせるようになったということよりも、体育で体をいっぱい動かして楽しかった・面白かったという子が増えたかどうかを重視される社会を望みます。皆さんが考える理想の姿と、そこに向けてSSFという箱をどう活用していきたいか、夢を聞かせてください。

武富 今の社会では、スポーツをやろうと強く思わないと、するところまでたどり着きません。そうしたハードルを下げ、全員のニーズが満たされている状態を目指すべきだと考えています。スポーツが嫌い、苦手という人もいるし、景色を見ながら長距離を走るのが好きな人もいれば、短距離をダッシュするのが好きな人もいます。運動嫌いな子がふとした瞬間にちょっとボールを投げようかなと思ったとき、テレビでやっていたサッカーの試合が面白そうだったとき、簡単に一歩を踏み出せる状態が理想ではないのでしょうか。それぞれ思い立ったときにすぐやれ

る、ハードとソフト両方の社会環境づくりに、シンクタンクの立場から貢献したいと思っています。

清水 健 私はSSFに入り研究スタッフの方々と接し、日々情報発信をする中で、スポーツには「学ぶ」楽しさがあることを知りました。「する」スポーツのアクセスのバリアを小さくしていくのはもちろんのことですが、スポーツは「学ぶ」「ささえる」「みる」、ほかにもいろいろな関わり方ができます。私が子どもの頃は「する」スポーツが中心でしたが、そういう多様なスポーツとの関わりがあることを、子どもの頃から感じられる社会になるといいですね。



玉澤 一人ひとりに合ったスポーツの楽しみ方を一人ひとり見つけて、人生を豊かにしていくのは、まさに「スポーツ・フォー・エブリワン社会の実現」です。

清水 恵 娯楽やライフスタイルが多様化する中で、スポーツを自治体や住民の方々に選んでもらうには、スポーツによってまちの将来がこうなります、という可能性をいくつか提示することでイメージしてもらえるのではと思います。そして「スポーツ実施率を数年後に何%にする」という数字だけを追いかけるのではなく、その先を見すえていける社会にしていきたいです。SSFは、自治体とのつながり、スポーツ庁とのつながり、各種団体とのつながりがある中で、間に立って咀嚼した情報を提供できる、ハブとしての役割を果たしていけるのではないのでしょうか。

宮本 純然たる学術研究機関ではなくシンクタンクですから、ファクトとしての研究結果に加えて、「好きに楽しんでいい」というメッセージを積極的に出すことができるのは、SSFの立ち位置ならでばだと思っています。学術研究にしばらくテーマでも扱えるのがSSFの強みなので、これから研究するメンバーには、自分たちが理想とするスポーツに向かって、本当にやるべき研究は何かを、現場のニーズに耳を傾けつつ考えてほしいですね。

玉澤 目指す社会に近づくために、スポーツを通じて「どの道をとるべきか?」を提案するのが、スポーツ分野のシンクタンクとしてあるべき姿なのでしょう。自治体に寄り添い、彼らが目指す社会像に対して知恵袋になっていける。それが、SSFは今後どうあるべきかのヒントなのだと感じました。

資料

財団情報

→ P.84

歴代役員・評議員

→ P.86

主な刊行物・報告書

→ P.88

財団概要

名称	公益財団法人 笹川スポーツ財団
英語表記	Sasakawa Sports Foundation 略称:SSF
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階
TEL	03-6229-5300
FAX	03-6229-5340
E-MAIL	info@ssf.or.jp
URL	https://www.ssf.or.jp/
設立年月	1991年(平成3年)3月 ※公益財団法人への移行2011年4月/公益変更認定2013年4月
行政庁	内閣府
財団理念	スポーツ・フォー・エブリワンの推進
定款に定める 法人の目的・事業	この法人は、わが国のあらゆるスポーツの普及、振興、育成を図り、調査、研究、政策提言を行うことで、国民の心身の健全な発達と明るく豊かな国民生活の形成に寄与することを目的とする。この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。 (1)スポーツ政策に関する調査、研究及び提言 (2)地域コミュニティ形成、人材育成を図るための事業に対する助成 (3)スポーツライフの充実に関する普及啓発 (4)その他この法人の目的を達成するために必要な事業
加盟機関	国際スポーツ・フォー・オール協議会(TAFISA) 日本スポーツ・フォー・オール協議会(TAFISA-JAPAN) 国際スポーツ・フォー・オール連盟(FISpT)
関連組織	特定非営利活動法人 日本スポーツボランティアネットワーク(JSVN) 特定非営利活動法人 日本ワールドゲームズ協会(JWGA)
基本財産	5,522,754,300円(2022年3月31日現在)

理事・監事・評議員

(五十音順・2023年1月31日現在)

理事長	渡邊 一利 笹川スポーツ財団 代表理事
常務理事	玉澤 正徳 笹川スポーツ財団 業務執行理事
理事	青島 健太 参議院議員 荒木田 裕子 NPO法人 全国ラジオ体操連盟 会長 佐野 慎輔 尚美学園大学 教授/産経新聞 客員論説委員 田口 亜希 一般社団法人 日本パラリンピアンズ協会 副会長 土肥 美智子 公益財団法人 日本サッカー協会診療所 院長 中村 考昭 クロススポーツマーケティング株式会社 代表取締役社長 ゼビオスポーツ総研 エグゼクティブフェロー 増田 明美 スポーツジャーナリスト 武藤 泰明 早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授 任期：2021年6月～2023年の定時評議員会終結の時まで(2年間)
監事	西本 克己 株式会社東京ビー・エム・シー 相談役 三浦 雅生 弁護士 任期：2019年6月～2023年の定時評議員会終結の時まで(4年間)
評議員	伊藤 華英 一般社団法人 スポーツを止めるな 理事 上治 丈太郎 一般社団法人 日本スポーツツーリズム推進機構 理事 大山 加奈 スポーツキャスター 佐藤 次郎 スポーツジャーナリスト 長崎 宏子 有限会社 ゲンキなアトリエ 取締役 成田 真由美 日本テレビ放送網株式会社 前田 晃 公益財団法人 日本財団 専務理事 山下 泰裕 公益財団法人 日本オリンピック委員会 会長 山脇 康 公益財団法人 日本財団パラスポーツサポートセンター 会長 任期：2019年6月～2023年の定時評議員会終結の時まで(4年間)

	1991	2000	10	20	(年)
会長					
坪内嘉雄	1991.4.1~1997.3.31				
小野清子		1997.4.1~2011.3.31			
理事長					
小野清子			2011.4.1~2017.6.13		
渡邊一利				2017.6.14~	
理事					
青木半治	1991.4.1~2005.3.31				
青島健太			2011.4.1~		
赤木恭平	1991.4.1~2011.3.31				
雨宮 忠		2002.10.3~2007.9.30			
荒木田裕子			2011.4.1~		
安西孝之		2003.4.1~2005.3.31			
池田 勝	1997.4.1~2000.11.14				
犬飼基昭			2009.4.1~2011.3.31		
衛藤瀧吉	1991.4.1~2001.3.31				
王 貞治	1991.4.1~1995.3.31				
岡野俊一郎		1997.4.1~2011.3.31			
小野清子		1995.4.1~2017.6.13			
神山榮一	1993.1.20~2007.3.31				
川淵三郎		2003.4.1~2009.3.31			
小掛照二	1995.4.1~2010.5.9				
木原光知子		2005.4.1~2007.12.7			
小峯 力		2005.4.1~2011.3.31			
笹川陽平	1991.4.1~1993.10.14				
佐野和夫			2009.4.1~2011.3.31		
佐野慎輔				2015.6.9~	
城倉英人	1991.4.1~1999.3.31				
杉尾榮俊	1995.4.1~2001.3.31				
鈴木祐一	1991.4.1~2005.3.31				
田口亜希				2017.6.14~	
竹田恆和		2002.4.1~2011.3.31			
田中ウルヴェ京			2013.6.11~2021.6.17		
玉澤正徳				2021.6.18~	
玉利 齊	1991.4.1~2011.3.31				
茶野順子			2011.4.1~2019.6.11		
堤 義明	1991.9.12~1997.3.31				
坪内嘉雄	1991.4.1~1997.3.31				
土肥美智子				2021.6.18~	
長沼 健	1995.4.1~2003.3.31				
中島 光			2017.6.14~2021.6.17		
中村考昭				2021.6.18~	
林 利博		2005.4.1~2009.3.31			
藤本和延	1991.4.1~2009.3.31				
藤本秀朗	1995.4.1~1997.3.31				
古橋廣之進	1991.4.1~2005.3.31				
古村澄一	1991.4.1~1997.6.30				
逸見博昌		1997.7.1~2002.7.25			
増田明美		2005.4.1~2011.3.31	2013.6.11~		
三屋裕子		2005.4.1~2011.3.31			
三ッ谷洋子		2001.4.1~2011.3.31・評議員へ			
武藤泰明				2015.6.9~	
森 喜朗		2005.6.8~2011.3.31			
森田文憲		2007.4.1~2010.3.31・評議員へ			
八木祐四郎	1999.4.1~2001.9.9				
横山 喬	1999.4.1~2005.3.31				
渡邊一利		2005.4.1~			

	1991	2000	10	20	(年)
監事					
西本克巳	1991.4.1~1993.10.14			2011.4.1~	
船越 眞		2001.4.1~2011.3.31			
三浦雅生	1995.4.1~				
宮地真澄	1994.3.24~1995.3.31				
若松亮任	1991.4.1~2001.3.31				
評議員					
青島健太		1999.4.1~2011.3.31・理事へ			
朝吹 誠	1991.4.1~1993.11.12	1995.4.1~1999.3.31			
荒木田裕子			2005.4.1~2011.3.31・理事へ		
有森裕子			2002.10.3~2009.3.31		
池田 勝	1991.4.1~1997.3.31				
伊藤 修	1991.4.1~2002.2.21				
伊藤華英				2015.6.9~	
上治丈太郎				2015.6.9~	
海老原修		1997.4.1~2011.3.31			
大西一平		1997.4.1~2001.3.31			
大森修平	1991.4.1~1995.3.31				
大山加奈				2019.6.12~	
奥村廣重			2004.6.2~2008.3.31		
狩野薫敏	1991.4.1~1995.3.31				
神山榮一	1991.4.1~1993.1.20・理事へ				
川西正志			2005.4.1~2011.3.31		
菊地 陸	1991.4.1~2003.3.31				
北村博史		2001.10.1~2004.5.31			
木原光知子	1991.4.1~2005.3.31・理事へ				
小島文雄		1999.4.1~2001.3.31			
後藤忠治	1995.4.1~1997.3.31				
今 義男				2011.4.1~2015.6.8	
坂井利郎		1997.4.1~2011.3.31			
佐藤次郎				2015.6.9~	
ジャックK.坂崎	1991.4.1~1995.3.31				
其川 武		1997.6.1~2001.9.30			
竹田恆和				2011.4.1~2019.6.26	
武田敏章	1995.4.1~2001.10.7				
田中ウルヴェ京			2005.4.1~2011.3.31		
鳥井啓一	1995.4.1~2005.3.31				
鳥海又五郎	1995.4.1~2011.3.31				
中原康隆	1991.4.1~1995.3.31				
長崎宏子		1997.4.1~			
成田真由美			2005.4.1~2011.3.31	2015.6.9~	
西木正明		1999.4.1~2011.3.31			
野上 助	1995.4.1~1999.3.31				
藤田昌武	1991.4.1~1995.3.31				
船越 眞	1995.4.1~2001.3.31・監事へ				
前田 晃				2011.4.1~	
増田明美		1999.4.1~2005.3.31・理事へ			
間野義之			2003.4.1~2011.3.31		
三浦雄一郎	1991.4.1~1995.3.31				
三ッ谷洋子	1991.4.1~2001.3.31・理事へ			2011.4.1~2019.6.26	
宮地真澄	1991.4.1~1994	1995.4.1~2008.3.31			
望月紀美子		1997.4.1~2003.3.31			
森田文憲				2010.4.1~2011.3.31	
師岡文男	1995.4.1~2005.3.31				
山口泰雄		2001.4.1~2011.3.31			
山下泰裕				2019.6.27~	
山脇 康				2015.6.9~	
遊佐雅美			2005.4.1~2011.3.31		
吉田正志	1991.4.1~1997.5.31				
吉松昌彦	1991.4.1~1994.8.23				

スポーツライフ・データ

スポーツライフ・データ 1993 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 1994 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 1996 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 1998 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2000 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2002 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2004 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2006 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2008 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2010 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2012 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2014 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2016 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2018 スポーツライフに関する調査報告書
 スポーツライフ・データ 2020 スポーツライフに関する調査報告書
 青少年のスポーツライフ・データ 2002 10代のスポーツライフに関する調査報告書
 青少年のスポーツライフ・データ 2006 10代のスポーツライフに関する調査報告書
 青少年のスポーツライフ・データ 2010 10代のスポーツライフに関する調査報告書
 青少年のスポーツライフ・データ 2012 10代のスポーツライフに関する調査報告書
 青少年のスポーツライフ・データ 2013 10代のスポーツライフに関する調査報告書
 青少年のスポーツライフ・データ 2015 10代のスポーツライフに関する調査報告書
 子どものスポーツライフ・データ 2010 4～9歳のスポーツライフに関する調査報告書
 子どものスポーツライフ・データ 2012 4～9歳のスポーツライフに関する調査報告書
 子どものスポーツライフ・データ 2013 4～9歳のスポーツライフに関する調査報告書
 子どものスポーツライフ・データ 2015 4～9歳のスポーツライフに関する調査報告書
 子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2017 4～21歳のスポーツライフに関する調査報告書
 子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2019 4～21歳のスポーツライフに関する調査報告書
 子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2021 4～21歳のスポーツライフに関する調査報告書

The 2008 SSF National Sports-Life Survey Executive Summary

The 2016 SSF National Sports-Life Survey Executive Summary

The 2021 SSF National Sports-Life Survey of children and young People Executive Summary

スポーツ白書

スポーツ白書 ～2001年のスポーツ・フォー・オールに向けて～ .1996
 スポーツ白書2010 スポーツ・フォー・オールからスポーツ・フォー・エブリワンへ .2001

スポーツ白書 ～スポーツの新たな価値の発見～ .2006
 スポーツ白書 ～スポーツが目指すべき未来～ .2011
 スポーツ白書 2014 ～スポーツの使命と可能性～
 スポーツ白書 2017 ～スポーツによるソーシャルイノベーション～
 スポーツ白書 2020 ～2030年のスポーツのすがた～
 Sport White Paper in Japan Digest .2006
 Sport White Paper in Japan Digest .2011
 Sport White Paper in Japan Digest 2014
 White Paper on Sport in Japan 2017
 White Paper on Sport in Japan 2020

チャレンジデー

チャレンジデー 1996 レポート
 チャレンジデー 1997 レポート
 チャレンジデー 1998 レポート
 チャレンジデー 1999 レポート
 チャレンジデー 2000 レポート
 チャレンジデー 2001 レポート 10th Anniversary
 チャレンジデー 2002 レポート
 チャレンジデー 2003 レポート
 チャレンジデー 2004 レポート
 チャレンジデー 2006 レポート
 チャレンジデー 2007 レポート
 チャレンジデー 2008 レポート
 チャレンジデー 2009 レポート
 チャレンジデー 2010 レポート
 チャレンジデー 2011 レポート
 チャレンジデー 2012 レポート
 チャレンジデー 2013 レポート
 チャレンジデー 2014 レポート
 チャレンジデー 2015 レポート
 チャレンジデー 2016 レポート
 チャレンジデー 2017 レポート
 チャレンジデー 2018 レポート
 チャレンジデー 2019 レポート
 チャレンジデー 2021 レポート
 チャレンジデー 2022 レポート

笹川スポーツ研究助成

2011年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書
 2012年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書
 2013年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書
 2014年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書
 2015年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書
 2016年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書
 2017年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書
 2018年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書
 2019年度 笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書

政策提言

政策提言 国民が生涯を通じて、それぞれが望むかたちでスポーツを楽しむ、幸福を感じられる社会の形成 .2011
 政策提言2017 (地域スポーツ/子どものスポーツ/スポーツの場/障害者スポーツ)
 政策提言2021 地域における障害者のスポーツ環境充実に向けて

調査報告書(研究テーマ)

2010年度 スポーツ振興に関する自治体調査
 2010年度 中央競技団体现況調査
 2010年度 障害者スポーツ施設に関する研究
 2010年度 スポーツ・運動・健康系NPO法人に関する調査
 2010年度 スポーツ基本法に関する研究
 2011年度 公共スポーツ施設整備財源に関する研究
 2011年度 スポーツ行政における公共部門の役割に関する研究
 2011年度 子どもの運動・スポーツ指導者の意識等に関する調査
 2011年度 スポーツボランティア団体の活動に関する調査
 2011年度 種目別にみるスポーツ実施状況に関する研究～スポーツ活動に関する全国調査の二次分析から～
 2011年度 ネット調査:子どもの運動・スポーツ実施実態調査
 2011年度 日本レクリエーション協会委託調査「加盟種目団体組織強化のための基礎調査」
 2012年度 公共スポーツ施設の整備状況に関する研究
 2012年度 わが国のスポーツ行政体制に関する研究
 2012年度 中央競技団体现況調査
 2012年度 障害者スポーツ施設に関する調査
 2012年度 子どもの運動・スポーツ指導者の意識等に関する調査
 2012年度 幼少年期の遊び・運動歴とスポーツ活動に関する調査
 2012年度 徳島県鳴門市市民のスポーツライフに関する実態調査
 2013年度 スポーツ振興に関する全自治体調査
 2013年度 中央競技団体および都道府県体育協会のウェブサイト分析調査
 2013年度 日本スポーツ少年団 全国市区町村スポーツ少年団実態調査
 2013年度 中央競技団体の主催大会に関する調査研究
 2013年度 スポーツボランティア実施率調査
 2014年度 総合型地域スポーツクラブに関する調査
 2014年度 中央競技団体现況調査
 2014年度 企業スポーツに関する実態調査
 2014年度 運動・スポーツ実施率に関する実態調査
 2014年度 種目別にみるスポーツ実施状況に関する研究
 2014年度 スポーツ基本計画の評価に関する研究
 2014年度 スポーツ少年団の団員数に関する研究
 2014年度 障害者スポーツ施設に関する研究
 2015年度 スポーツ少年団現況調査
 2015年度 障害者スポーツ施設に関する研究

2015年度 公共スポーツ施設整備における補助制度等に関する研究
 2015年度 中央競技団体の情報開示に関する調査研究
 2015年度 スポーツボランティアに関する研究
 2015年度 スポーツ振興に関する全自治体調査
 2016年度 特別支援学校のスポーツ環境に関する調査
 2016年度 鳴門市の公共施設におけるスポーツ活動に関する調査
 2016年度 都道府県・政令指定都市障がい者スポーツ協会に関する調査
 2016年度 中央競技団体现況調査
 2016年度 旅先でのスポーツ実施に関する調査
 2016年度 スポーツライフに関するウェブ調査
 2017年度 小学生のスポーツ活動における保護者の関与・負担感に関する調査研究
 2017年度 中央競技団体の財務評価に関する研究
 2017年度 公共スポーツ施設整備における地方創生推進交付金の活用に関する研究
 2017年度 スポーツボランティアに関する実態調査2018
 2018年度 『SSFスポーツ都市インデックス』(SSF Sport City Index)の開発研究
 2018年度 新たな地域スポーツプラットフォーム形成に向けた実践研究
 2018年度 中山間地域におけるスポーツを通じた地域活性化に関する調査研究
 2018年度 動きの質の低下の要因分析と学校体育における基本的な動きの評価基準の開発
 2018年度 スポーツ少年団に関する市町村事例調査
 2018年度 児童の『体力向上』に向けた基礎研究と支援事業
 2018年度 障害者専用・優先スポーツ施設に関する研究
 2018年度 地域スポーツイノベーター (障害者スポーツ)
 2018年度 スポーツボランティアに関する研究
 2018年度 シニアの運動・スポーツに関する研究
 2018年度 中央競技団体现況調査
 2018年度 中央競技団体の財務分析に関する研究
 2018年度 自治体のスポーツ施策に関する評価手法の研究開発
 2019年度 新たな地域スポーツプラットフォーム形成に向けた実践研究
 2019年度 スポーツにおけるストックの詳細把握に関する研究
 2019年度 動きの質の低下の要因分析と学校体育における基本的な動きの評価基準の開発
 2019年度 児童の「体力向上」に向けた基礎研究と支援事業
 2019年度 地域スポーツイノベーター (障害者スポーツ)
 2019年度 スポーツボランティアに関する研究
 2020年度 新たな地域スポーツプラットフォーム形成に向けた実践研究
 2020年度 小学校における児童の「体力向上」に向けた基礎研究と支援事業
 2020年度 小学校体育授業で活用可能な基本的な動きの評価システムの開発
 2020年度 地域スポーツイノベーター (障害者スポーツ)
 2020年度 スポーツボランティアに関する調査研究

2020年度 中央競技団体現況調査
 2020年度 運動習慣の定着化に関する調査研究 ※基金事業
 2020年度 新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査
 2021年度 新たな地域スポーツプラットフォーム形成に向けた実践研究
 2021年度 福知山市スポーツカルテ実証研究
 2021年度 小学校における児童の「体力向上」に向けた基礎研究と支援事業
 2021年度 小学生のスポーツ活動における保護者の関与・負担感に関する調査研究
 2021年度 障害者専用・優先スポーツ施設に関する研究
 2021年度 中央競技団体の経営評価に関する調査研究
 全調査スポーツ1 スポーツライフに関する調査報告書 .1991
 全調査スポーツ2 スポーツ・レクリエーション団体実情調査報告書 .1991
 SSFが考えるスポーツクラブ .1999
 スポーツNPO法人に関する調査報告 .2001
 International Comparative Survey of Volunteers in Sport for All (Pre-survey) Executive Summary .2003
 クラブハウス・ガイドブック .2004
 海外ロードレース大会の実態調査報告書 ロンドンマラソンのフィロソフィー .2004
 スポーツ・ボランティア・データブック .2004
 ドイツのスポーツクラブ、スポーツ政策等についての調査(ドイツ連邦共和国のスポーツ) 2005
 World Sport Volunteers International Comparative Survey of Sport Volunteers .2005
 感動は心の報酬 長期スポーツキャンプ .2008
 諸外国から学ぶスポーツ基本法：日本が目指すスポーツ政策 .2010

文部科学省・スポーツ庁受託事業

諸外国におけるスポーツ振興政策についての調査 .1998
 諸外国におけるスポーツ振興政策についての調査研究 2005年3月
 文部科学省委託調査『スポーツ政策調査研究』報告書.2011
 諸外国における障害者のスポーツ環境に関する調査[イギリス、カナダ、オーストラリア]報告書 .2017
 『健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』.2015
 『健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』報告書 .2013
 『健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』報告書 .2014
 『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』.2016
 『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』報告書 .2018
 スポーツ庁委託調査 『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加における障壁等の調査分析)』報告書 .2017

SSF世界スポーツフォトコンテスト

One Moment in Time 肉体の瞬間：SSF世界スポーツフォトコンテスト開催記念写真展 .1994
 One Moment in Time：SSF世界スポーツフォトコンテスト'96
 One Moment in Time：SSF世界スポーツフォトコンテスト1998
 One Moment in Time：SSF世界スポーツフォトコンテスト2001
 One Moment in Time：SSF世界スポーツフォトコンテスト2002 (DVD版)
 One Moment in Time：SSF世界スポーツフォトコンテスト2004 (DVD版)

Sport Policy for Japan

Sport Policy for Japan 2011 報告書
 Sport Policy for Japan 2012 報告書
 Sport Policy for Japan 2013 報告書
 Sport Policy for Japan 2014 報告書
 Sport Policy for Japan 2015 報告書
 Sport Policy for Japan 2016 報告書
 Sport Policy for Japan 2017 報告書
 Sport Policy for Japan 2018 報告書

SPORTS FOR ALL

SPORTS FOR ALL VOL.0 .1992
 SPORTS FOR ALL VOL.1 .1992
 Sport for All in JAPAN .2001
 Sport for All in JAPAN SECOND EDITION .2002
 SPORT FOR ALL STRUCTURES IN ASIAN AND OCEANIAN COUNTRIES .1997
 SPORT FOR ALL STRUCTURES IN ASIAN AND OCEANIAN COUNTRIES .2000

スポーツセミナー

SSFスポーツセミナー1998 報告書—NPO法とスポーツ団体
 SSFスポーツセミナー2000 報告書—道路をスポーツに開放しよう
 SSFスポーツセミナー2001 報告書—子どものスポーツライフを考える～置き去りにされた子どもたち～
 SSF セミナー2013 SUMMER 報告書—地域を元気にするスポーツ振興プログラム—
 第1回 SSFスポーツ・セミナー 報告書 .1991
 第2回 SSFスポーツ・セミナー 報告書 .1991
 第3回 SSFスポーツ・セミナー 報告書 .1991
 第4回 SSFスポーツ・セミナー 報告書 .1992
 第5回 SSFスポーツ・セミナー 報告書 .1992
 第6回 SSFスポーツ・セミナー 報告書 .1992
 第7回 SSFスポーツ・セミナー 報告書 .1992

スポーツNPOサミット

第1回 スポーツNPOサミット 東京 報告書 .2002
 第2回 スポーツNPOサミット 東京 報告書 .2003
 第3回 スポーツNPOサミット 東京 報告書 .2004
 第4回 スポーツNPOサミット 東京 報告書 .2005
 第5回 スポーツNPOサミット 東京 報告書 .2006

スポーツフォーラム

SSFスポーツフォーラム報告書 .1997
 SSFスポーツフォーラム1997—スポーツクラブをつくりましょう
 SSFスポーツフォーラム1999 報告書—このままではスポーツクラブはできない

SSF海外レポート

SSF海外レポートNo.1 英国スポーツ・カウンシル 1990年代に向けての地域スポーツ
 SSF海外レポートNo.2 英国スポーツ・カウンシル実績報告(1989—1990)
 SSF海外レポートNo.3 英国スポーツ・カウンシル年次報告書(1989—1990)
 SSF海外レポートNo.4 CCPR英国のスポーツ・レクリエーション関係組織 .1992
 SSF海外レポートNo.5 CCPR年次報告書(1989—1990)
 SSF海外レポートNo.6 CCPR野外におけるスポーツ・レクリエーション
 SSF海外レポートNo.7 ドイツ連邦共和国のスポーツ .1996
 SSF海外レポートNo.8 ドイツ・スポーツ連盟(DSB)のマーケティング戦略
 SSF海外レポートNo.9 ドイツ スポーツ技能検定の集いに関する指導書 .1996
 SSF海外レポートNo.10 2000年に向けてのスポーツ提言 .1996
 SSF海外レポートNo.11 21世紀へ、英国スポーツの展望 .1997
 SSF海外レポートNo.12 スポーツクラブをつくろう .1997
 SSF海外レポートNo.13 イタリア・スポーツ白書 .1999
 SSF海外レポートNo.14 米国オリンピック委員会 97～98 ファクトブック

TAFISA/ASFAA

TAFISA Active World 2011 the Global Almanac on Sport for All
 TAFISA World 2001 The Global Almanac on Sport for All
 TAFISA-SSF World Forum 報告書 .2013
 ASFAA Newsletter November 1994
 ASFAA Newsletter March 1996
 ASFAA Newsletter March 1997
 ASFAA Newsletter March 1998
 ASFAA Newsletter Spring 1999
 ASFAA Newsletter Spring 2000

スポーツ歴史の検証

スポーツ歴史の検証 報告書.2013
 スポーツ歴史の検証 2014年度版-プロスポーツのカリスマたち-
 スポーツ歴史の検証 2016年度版 一次世代の架け橋となる人びと—
 スポーツ歴史の検証 2017年度版 —1964年東京大会を支えた人びと—
 スポーツ歴史の検証 1964年東京大会を支えた人びと.2019
 スポーツ歴史の検証 2018年度版 —日本のラグビーを支えてきた人々—
 スポーツ歴史の検証 2019年度版 スポーツの変革に挑戦してきた人びと

スポーツ歴史の検証 2021年度版 —東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会—
 スポーツ歴史の検証 オリンピック・パラリンピック 残しておきたい物語 .2020
 スポーツ歴史の検証 オリンピック・パラリンピックのレガシー 2018
 スポーツ歴史の検証 オリンピック・パラリンピック東京2020大会 .2020
 スポーツ歴史の検証 スポーツ史の偉人の言葉を通し、未来像を探る オリンピアンかく語りき .2013
 スポーツ歴史の検証 日本のスポーツとオリンピック・パラリンピック 歴史を刻んだ人々 .2019
 スポーツ歴史の検証 日本のスポーツとオリンピック・パラリンピックの歴史 .2017

スポーツアカデミー

笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2012 報告書
 笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2013 報告書
 笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2014 報告書
 笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2015 報告書
 笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2016 報告書
 笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2017 報告書
 笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2018 報告書
 笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2019 報告書
 笹川スポーツ財団スポーツアカデミー2020 報告書

その他

笹川スポーツ財団20年史 .2011
 スポーツと地方創生 .2019
 企業スポーツの現状と展望 .2016
 入門スポーツガバナンス-基本的な知識と考え方-.2014

笹川スポーツ財団 30年史

発行 2023年3月15日
発行者 渡邊 一利
発行所 公益財団法人 笹川スポーツ財団
〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階
TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340
URL <https://www.ssf.or.jp/> E-MAIL info@ssf.or.jp

The 30year history of Sasakawa Sports Foundation

Date 15 Mar , 2023
Produced by Kazutoshi Watanabe
Published by Sasakawa Sports Foundation
3F, The Nippon Zaidan Building,
1-2-2 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan
TEL +81-3-6229-5300 FAX +81-3-6229-5340
URL <https://www.ssf.or.jp/> E-MAIL info@ssf.or.jp



本年史はポートレースの交付金による日本財団の助成により制作いたしました。



笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION